



『母子救命』で未来を守る



産婦人科 部長

清川 晶

▶ 女性の一生に寄り添う

DOHAD (Developmental Origins of Health and Disease) という概念がある。「胎児期や生後早期の環境が、将来の健康や特定の病気のかかりやすさに影響を及ぼす」というものだ。胎児期の遺伝子プログラミングで将来の病気がある程度決まるとされる。妊娠中の母体の環境を良くし、赤ちゃんに胎児期から適切な環境を整えることで、その子の将来の健康を向上させることができる。清川医師は低出生体重、早産、母体合併症などで生まれる赤ちゃんのリスク軽減に、母体の健康状態改善を通じて取り組んでいる。外来では、女性のホルモンに関するケア、閉経後のGSM (閉経関連泌尿生殖器症候群)、思春期の女子の月経困難症など幅広く対応。日本スポーツ協会公認のスポーツドクターの資格を生かし、女性スポーツ選手のパフォーマンス向上や体調管理をサポートする診療も行っている。健康に関わることもある。

「病気になるように診られるところも、産婦人科の魅力」「女性ヘルスケアは、女性が生涯で経験する体や心の悩みに対応する医療。生理痛や子宮筋腫、尿漏れ、更年期障害、感染症などの問題だけでなく、婦人科手術後のケアも行い、健康を守りながら生活を快適にするサポートを提供する。女性特有の悩みに寄り添い、病気の予防や生活の質の向上を目指す総合的な医療」と清川医師は語る。

妊娠中に健康上の問題が発生した妊婦さんは、出産後改善しても、将来の心血管疾患のリスクを抱える。清川医師が救急診療でしばしば経験したのが、女性が脳梗塞、脳出血、心筋梗塞で搬送され、「これまで病気をしたことはありません」と話されるものの、実際には高血圧や糖尿病が見つかる事例。「この方々は、妊娠中に健康上の問題があったのでは」と考える。妊婦さんに関わることで、のちのお母さんと赤ちゃんの健康、ご家族の幸せな未来に関わりたいと願い、今日も患者さんに向き合う。



きよかわ ひかる

兵庫県宝塚市出身。和歌山県立医科大学卒。三重大学、京都大学、大阪日赤病院などを経て2022年当院へ着任。専門領域は周産期と女性ヘルスケア。日本専門医機構認定産婦人科専門医、日本周産期・新生児医学会専門医(母体・胎児)など。10月に久々の夏季休暇を取得し屋久島へ。名前の一字「晶」に縁を感じて、幼少期から水晶を振り回していたが、念願叶い7mmの水晶を振り当てた。



personality

背中を押した小説の後書き

実は薬剤師として就職後に医師を目指したんです。「患者さんにもっと深く関わりたい」と思い、医学部へ再入学しました。学生時代は救急医療に特に惹かれましたが、現役産婦人科教授の書いた小説「ノーフォールト」(産科医療の現場が抱える問題や、医療訴訟の現実、医師たちの苦悩や努力が描かれたもの)の後書きにあった「産婦人科医は必要とされている」という熱い思いに触れ、「必要とされる場所で」と進路を決めました。産科危機的出血など救急と結びつく場面も多く、やりがいを感じています。

私の信条

患者さんの主訴の背景に生活環境、社会的な問題がないか、最初によくお話を聞くことを心がけています。例えば婦人科手術で入院された高齢の女性。認知機能が低下し、ご主人がいつも一緒に来られるけれど、奥さんへの態度が時々厳しく、怯えている。話を聞くと、ご主人の手が出ることもあると分かりました。ご主人に何うと、お一人で大変な介護をされていたので、入院中に認知症サポートチームに相談して、ヘルパー等のサポートにつなぎました。病気を治すだけでなく、持病があっても快適に、家族とともに穏やかに過ごせるように、と考えています。

病院の垣根を越えて、地域で一つのチームに

これまで、目の前の患者さん一人ひとりを大切に考えてきました。今は、若手を指導する立場になり、一緒に働く仲間が同じように目の前の患者さんを大切にし、力を発揮できるようにチーム作りを考えています。さらに、当院だけでなく病院の垣根を越えて、医療に関わる地域の皆さんとともに、一つのチームとして患者さんを支えたい。

keyword

キーワード

プレコンセプションケア

プレ (Pre) は「～の前の」、コンセプション (Conception) は「妊娠・受胎」という意味で「妊娠前からのケア」を表します。プレコンセプションケアとは、将来の妊娠や出産に備えて、女性やカップルが自分たちの健康に向き合うヘルスケアです。

対象は、前思春期 (10～12歳) から生殖可能年齢 (45歳頃まで) のすべての方々です。早期から正しい知識を持ち健康的な生活を送ることで、将来の安全な妊娠・出産だけでなく、未来の子どもの健康を守る可能性も高まります。また、疾患を持つ女性が妊娠前に自

身のリスクを把握し、適切な治療やケアを受けることも重要です。女性が健康であるための生活習慣として①適正体重を守る、②栄養バランスを整える、③適度に運動する、④禁煙する・受動喫煙を避ける、⑤アルコールは控えめに、⑥ストレスを溜め込まない、⑦葉酸は妊娠前から摂取する、を心掛けましょう。そして、若いころから健康診断を受け、病気の早期治療開始が大切です。妊娠すると口腔環境が悪化しやすいので、定期的な歯科検診も習慣にしましょう。



※2024年6月に開催した救急救命士向けの母子救命講習。専用の機材がなく、産婦人科で所有する備品などを活用しました。
今回のクラウドファンディングでいただいたご寄付により、よりリアルティのある病院前周産期救急シミュレーションコースをが開催できます。

全国的に分娩可能な医療機関が減少。 岡山県も例外ではない。

当院は、2022、23年にドクターカーと止水壁建設のクラウドファンディング（以下、CF）に挑戦し、多くのご寄付や応援の声を頂戴しました。同時に、CFを通じて当院の公益性の高い取り組みを、多くの方々に知っていただくことができたと感じています。

今回のプロジェクトは、職員の発案により生まれました。社会全体の課題として多くの方に取り組みを知っていただく、さらにその課題を地域の皆さまとともに解決したいという思いから、挑戦しました。

分娩施設が減少するなか、 高まる救急救命士への期待

現在、全国的に分娩施設の減少と集約化が進んでいます。岡山県内も出生数の減少などを背景に分娩施設は減少の一途をたどり、自宅近隣での出産が難しい方も増えています。特に現在、産婦人科が空白の自治体からは当院まで1〜2時間かかることもあり、救急車でもかなりの時間を要します。2023年12月には笠岡市で唯一の産婦人科病院が閉院し、分娩に対応できる医療機関が井笠地域からなくなりました。また、2025年3月末には新見市内でも分娩の取り扱いをやめる医療

機関があると報じられています。しかし、岡山県内で産みたいと願う方々がいなくなることはありません。2023年度も11575名の新たな命が生まれ、これからも里帰り出産を希望されたり、岡山県内に住む多くの方々が出産を控えています。

この事態に対応するため、2015年に高梁市が緊急時に妊婦さんを搬送する新たなサポート制度を立ち上げ、井原市、矢掛町、笠岡市、浅口市（金光町を除く）、里庄町でも同様のかたちで制度が立ち上がりました。妊婦さんからの救急救命士への期待は非常に大きいものとなっています。

高梁市消防本部

対象：高梁市に居住または帰省している妊婦
事業名：ママ・サポート119
事業開始：2015.1.1～
総届出件数：1,166件 ※2024.2.29時点
現届出件数：46件 ※2024.2.29時点

井原地区組合消防本部

対象：井原市・矢掛町に居住または帰省している妊婦
事業名：出産サポート119
事業開始：2023.10.10～
総届出件数：144件 ※2024.4.1時点

笠岡地区消防組合消防本部

対象：笠岡市・浅口市（金光町を除く）・里庄町に居住または帰省している妊婦
事業名：パパ・ママサポート119
事業開始：2023.12.18～
総届出件数：133件 ※2024.4.1時点
現届出件数：92件 ※2024.4.1時点

「命を救う」だけではない。 その家族の未来を守るのが 「母子救命」です。

喫緊の課題は
産科急変事態に適切に対応
するための救急救命士の訓練

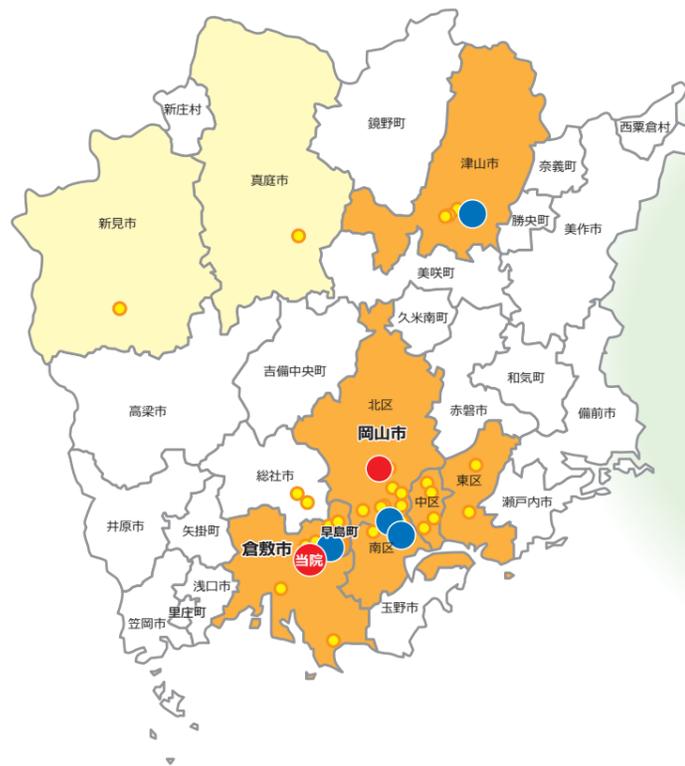
救急救命士にとって周産期症例に遭遇する機会はまれですが、母子双方が危機的状態に瀕した際のリスクは極めて高く、的確な判断と行動が求められます。「母子急変時に最前線に対応する救急救命士が、迅速かつ適切に処置を行えるよう、リアルティのある病院前周産期救急シミュレーションコースを開催」するため、産婦人科 清川医師が中心となり、プロジェクトを立ち上げました。

救急救命士は、妊婦さんや新生児の健康状態を正確に判断し、必要な処置を行い、できるだけ早く安全に病院に搬送する役割を担っています。病院前周産期救急の訓練には、以下のような内容が含まれます

- ① 妊娠・産褥女性特有の体の状態を適切に判断する方法
- ② 出産が始まった場合の対応
- ③ 出産後の異常出血やショック状態への対応
- ④ 新生児の蘇生法

この状況を全国的な問題として
広く知っていただきたい

講習開催だけが目的ではありません。この状況が岡山県だけの問題ではないこと。それが多くの方に伝わり、この取り組みが広がっていくことが、私たちの願いです。



岡山県内で 分娩ができる 医療機関

※2024.7.1 時点

□ 空白地帯



母子急変に最前線に対応する救急救命士を対象とした病院前周産期救急の講習開催に向けたクラウドファンディングに多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございました。

7月24日から9月30日までにお寄せいただいたご寄付は**327**件で、目標金額を大きく上回る

7,432,000円となりました。

ご寄付をいただいた方々、応援いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。

このページでは掲載の許可をいただいた皆さまのお名前をご紹介します。



株式会社クラビ
代表取締役社長 名古谷 知哉 様

武永 省二 様

赤松病院 院長 赤松 可得 様

不洗観音寺 様

いきいき介護支援センター

代表取締役 清川 愛 様
取締役 徳井 英 様

株式会社いのうえ

代表取締役 井上 峰一 様

医療法人イマイクリニック

理事長 今井 博之 様

上松 和彦 様

占部産婦人科 院長 占部 智 様

大塚 忠 様

岡崎 克紀 様

小笠原 敬三 様

清川 正義 様

清川 ひとみ 様

近藤 武志 様

斎久工業株式会社岡山支店 様

塩田 照芳 様

進藤 克郎 様

相元 裕通 様

竹内 心作 様

武田 修明 様

橘産婦人科医院 院長 橘 洋一 様

株式会社中電工倉敷支社 様

医療法人 心鹿会

理事長 二宮 典子 様

浜野 仁志 様

樋口 眞矢 様

樋口 美根子 様

有限会社ファミリーシッター岡山
代表取締役 神谷 美佐子 様

福原 慎一 様

福原 純子 様

株式会社藤木工務店 様

森山 博 様

渡部 晋一 様

倉敷中央病院ボランティア
「グリーンはあと」 様

妹尾 和男 様

医療法人浅桐産婦人科 様

株式会社プロバ

代表取締役 栗田 真志 様

室山 晃一 様

大久保 和俊 様

亀井 沙織 様

狩谷 伸享 様

川崎 薫 様

倉品 隆平 様

齋藤 美貴 様

山陽美業株式会社 様

柴田 綾子 様

下屋 浩一郎 様

橋井 康二 様

矢野 阿壽加 様



「すべての女性とそのご家族が 笑顔で未来を迎えられる社会を作りたい」

そんな願いから始まった今回のプロジェクト。7月24日に開始し、1か月で目標金額の350万円に到達。その後も多くの方々からご支援をいただき、最終的には目標を大きく上回るご寄付を頂戴しました。これほど多くの応援をいただけたことは、正直なところ想像していませんでした。ご支援くださった皆さまに、心より深く感謝申し上げます。これはゴールではなく、むしろここからが本当のスタートです。私たちは、病院前から患者さんの安全を守るために、引き続き努力を続けてまいります。救急救命士の訓練を通じて、病院前での連携を強化し、迅速かつ適切な対応ができる体制を整え、地域全体の安心を支える取り組みを推進してまいります。

この地域が「日本一安全に出産できる地域」となり、日本全体が「世界一安全に出産できる国」となるよう、今後も全力を尽くして取り組んでまいります。

清川 晶

※30,000円以上のご寄付をいただき、掲載許可の方を順不同で掲載しております。



倉敷中央病院からのお知らせ



くらしゅう癒しのコンサートを開催しています



公式SNSで情報発信中

市民公開講座の開催状況や疾患の解説記事、
当院で勤務する職員の紹介など、さまざまな
情報を公開していますので、ぜひご覧ください！

